

燃えるごみの分別状況の調査結果について

豊明市役所環境課

2月6日（木）に、大久伝区の役員のみなさまのご協力のもと、トヨタケユニティ(株)において、大久伝区の「燃えるごみ」の分別状況の調査を実施しました。

結果は裏面のとおりです。今回の調査において資源としてリサイクルできるものが全体の約20%で、その中で雑誌・雑紙、紙製容器包装、プラスチック製容器包装の3品目の割合が特に高いことが分かりました。ダイレクトメールやチラシなどは雑誌・雑紙に、お菓子などの箱は紙製容器包装に、お菓子や食パンなどの袋はプラスチック製容器包装となりますので、分別にご協力いただきますようお願いいたします。

また、燃えるごみ全体の約4割を占めているのは生ごみであり、その中には食べ残されたり、使いきれなくなったと思われる食材だけでなく、未開封の食料品も数多く含まれておりました。こういった「食品ロス」は、食べられる量だけ購入することや、腐りやすいものなどを優先的に調理することなど、ちょっとした心がけで確実に減ります。どうしても出てしまう生ごみも、水切りをしていただくことで水分が減り、ごみ減量に繋がります。

本市では、今年度から4年間で家庭から出る「燃えるごみ」の量を20%削減することを目標として定め、「ごみ減量20%大金星プロジェクト」に取り組んでいます。

目標達成のためには、皆様の協力が不可欠です。ごみ減量は決して難しいことではなく、①資源になる品目は分別すること ②食品ロスを減らし、生ごみは水切りすることを意識していただくことで、目標の達成に近づきますので、ご協力をお願いいたします。

以下の品目は「燃えるごみ」に出さないで、正しく分別して出してください！



雑誌・雑紙



プラスチック製容器包装



紙製容器包装

(参考) 豊明市におけるごみ減量化目標

年度	1人1日当たりの家庭系ごみの量 (g)	可燃ごみの減量率※	豊明市家庭系ごみ減量化実施計画より抜粋	
平成29年度 (2017年)	503	—	※ごみ全体の量から、可燃ごみの量のみ削減して算出	
令和2年度 (2020年度)	456	10%		中間目標
令和4年度 (2022年度)	410	20%		最終目標

令和元年度可燃ごみ組成調査結果

調査日：令和2年2月6日(木) 調査地区：大久伝区

分別種類	分別品目	重量 (kg)	重量比率 (%)
可燃ごみ	可燃ごみ(生ごみ以外)	65.15	39.66%
	手をつけている生ごみ	65.00	39.57%
	手をつけていない食品	1.80	1.10%
資源	雑誌・雑紙	14.18	8.63%
	プラスチック製容器包装	4.00	2.44%
	紙製容器包装	5.95	3.62%
	新聞	1.90	1.16%
	衣類・布類	2.10	1.28%
	ダンボール	1.60	0.97%
	ペットボトル	0.60	0.37%
	牛乳パック	0.90	0.55%
	ビン	0.20	0.12%
	アルミ	0.10	0.06%
	スチール	0.05	0.03%
	廃食用油	0.69	0.42%
		不燃ごみ	0.04
	合計	164.26	100.00%

